

イベント実施報告

「敬老の日特別企画 長寿動物をお祝いしよう」を開催しました

平川動物公園では、毎年9月の敬老の日に、長寿動物をお祝いするイベントを開催しています。内容は、来園者の皆さんにも参加してもらいながら特別にケーキを作ってプレゼントしたり、動物たちが喜ぶ大好きなエサを与えてもらうというもの。飼育担当者が作った愛情のこもった動物紹介パネルも展示しています。年に一度のこの素敵なイベントのために、メロンやイチゴ、キウイフルーツなど、普段は使わない特別な果物を用意して、クッキー型で可愛らしく切ったり、生クリームを泡立てたりといった下準備を、とてもわくわくした気持ちで行っています。

動物園では毎年たくさんの動物が生まれ、一方で、残念ながら病気やケガ、または生まれつきの弱さのために亡くなっていく命もあります。その中で、動物たちが健康に、おばあちゃん、おじいちゃんになっても元気で生きていき、天寿を全うするためには、その動物たちの生きる力はもちろん、日ごろの飼育員の細やかなケア、獣医師によるサポートが欠かせません。長寿動物たちを通じて、飼育する上での工夫などについて少しでも知っていただければと思います。また、これらの動物たちへの愛着や親しみをもっていただければ嬉しいです。



▲素敵なケーキができました！



▲特製ケーキを食べるビントロン



どうぶつ

ワオキツネザル

ワオキツネザルは、霊長目キツネザル科という、少し鼻先がとがったサルの仲間。おや？木の陰から何かがちらちら見えているのはシマシマのしっぽ！「あー！レッサーパンダだ！」そんな声が聞こえてくるけど…いやいや、よく観察してね！そんなワオキツネザルの名前の由来を紹介するよ。

ワオキツネザルの「ワオ」は「輪尾」。しっぽ「尾」に「輪」っかのような模様が入っていることから、そして顔がキツネに似ているところからワオキツネザルという名前が付いたんだ。

ワオキツネザルは寒いのがとっても苦手。そんな時はこのふわふわのしっぽを身体にぐるりと巻きつけて、身体を冷やさないようにもできるんだよ！



鹿児島市 平川動物公園

〒891-0133 鹿児島県鹿児島市平川町5669-1

TEL.099-261-2326 FAX.099-261-2328

■開園時間：午前9時～午後5時（入園は午後4時30分まで）

■休園日：12月29日～1月1日

URL <http://hirakawazoo.jp/>

Facebook <https://ja-jp.facebook.com/hirakawazoo>

Twitter <https://twitter.com/hirakawazoo>

動物取扱業の種別：展示 登録番号：生衛動取 第357号 登録の年月日：H28.5.11
有効期間末日：H33.5.11 動物取扱責任者：桜井普子

携帯サイトへ
アクセス！



ZOOっと平川 vol.22 2019年3月発行

編集・発行



〒892-0816 鹿児島市山下町15番1号

TEL.099-221-5055 FAX.099-223-5690

URL <http://k-kouenkousya.jp>

Facebook <https://ja-jp.facebook.com/k.kouenkousya>

鹿児島市平川動物公園情報誌

2019 vol.22

ZOOっと平川

特集1

西郷どんが出会った！？ 動物たち～後編～

特集2

亥年特集 平川動物公園の「亥」

特集3

シンリンオオカミが生まれました

西郷どんが 出会った!? 動物たち

～後編～



さて、今回は「西郷どん」(親しみを込めて、こうよばせていただきます)が幼少期から青年期にかけて鹿児島県で出会った! ? 動物たちを紹介しました。今回は離島でのお話から始めましょう。



島で出会った固有種たち

49年の生涯のうちで、経由地も含めると奄美大島、徳之島、口永良部島、屋久島、沖永良部島、喜界島の少なくとも6つの島を回った西郷どん。暮らしはもちろん、西郷どんを囲む生き物も薩摩と各島では大きく違ったはずです。島の人々や生き物と過ごした数年は、その後の西郷どんの生き方に大きな影響を与えたことでしょう。

奄美大島では…

幕府の追及から逃れるために、薩摩藩は西郷どんを奄美大島へ逃しました。約4年を過ごした奄美大島では、今では国の特別天然記念物のアマミノクロウサギや鹿児島県の県鳥であるルリカケスに出会ったことでしょう。そして、雨が降れば固有種のアマイシカワガエル、川に入ればリュウキュウアユの姿を見ることができたかもしれません。薩摩で見たカエルやアユを思い出し、奄美大島で出会った妻・愛加那や島の人たちに話す機会もあったかもしれませんね。



アマミノクロウサギ



リュウキュウアユ



アマイシカワガエル



奄美大島で過ごした家(龍郷町)

島々を経由し、沖永良部島へ…

口永良部島を経由して一度は薩摩へ帰還したものの、一年も経たずに今度は屋久島、徳之島を経由して、ついに沖永良部島へ流されてしまいました。口永良部島の海岸ではカエルのような顔の魚に驚いたかもしれません。この時は、薩摩で待つ家族たちとの再会を心待ちにし、すぐに遠島されるとは思っていなかったに違いありません。沖永良部島は、奄美大島よりもさらに南。海も陸も、その様子はきっと違ったことでしょう。



カラスほどの大きさ! ? エラブオオコウモリ



名前も顔もユニークなヨドレカケ

帰藩命令が出て薩摩へ

2年弱を島で過ごした西郷どんは36歳になっていました。帰藩命令が出ていよいよ薩摩へ戻ることに。途中寄港したのは、妻・愛加那の待つ奄美大島。愛加那とはこれで今生の別れとなったそうです。愛加那とは、一体どんな生き物をみたのでしょうか? ?



ツマベニチョウ



サトウキビ搾りにも利用されていたトカラウマ

日本のために奔走

薩長同盟の締結や江戸城の無血開城、そして廃藩置県を成し遂げた西郷どんですが、45歳の時には征韓論を巡り意見が対立して全ての官位官職を辞職し薩摩へ戻ってきます。イノシシやウサギの狩りをして過ごしていたようですが、山奥では今や絶滅したニホンオオカミやニホンカワウソに出会っていたかも! ? そして、狩りのお供をしていたといわれるのが薩摩犬。有名な「ツン」も西郷どんのお供をしていたようです。



藤川天神のツンの銅像(薩摩川内市)

西南戦争で政府軍と戦った西郷どんの最後の舞台は、桜島を望む城山。洞窟にこもり作戦を立てたといわれています。49年の人生で、西郷どんは鹿児島を隅々まで見てきたことでしょう。西郷どんが見たのと変わらず今も暮らす生き物もいれば、残念ながら絶滅してしまった生き物もあります。西郷どんが愛した鹿児島の自然を次の世代に引き継ぐことが、今を生きる私たちの使命なのではないでしょうか? ?



奄美大島 金作原原生林



出水平野のツル

亥年特集 平川動物公園の「亥」



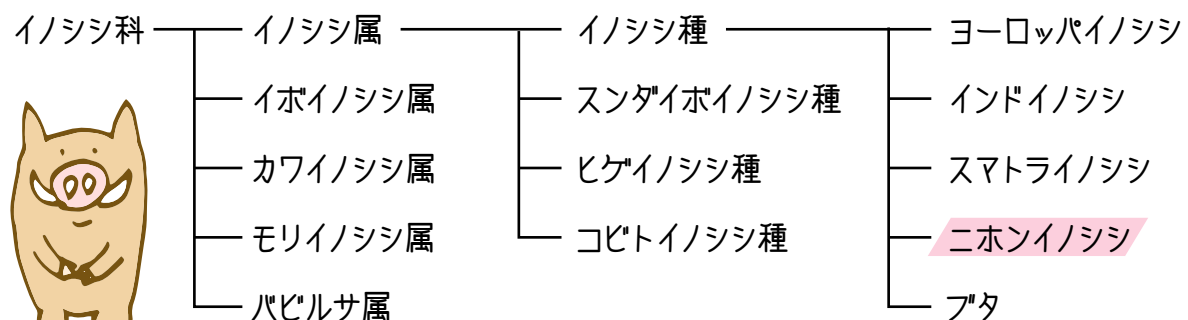
タロウの鼻拓

今年は亥年(いのししどし)です。現在、平川動物公園では、ニホンイノシシを1頭飼育展示しています。自然豊かな鹿児島では、出くわすこともあるかもしれない動物ですが、「イノシシってどんな動物?」と聞かれると、意外と困ってしまうのではないのでしょうか。イノシシ年だからこそ、イノシシの魅力を紹介します。

学名: *Sus scrofa leucomystax*
英名: Japanese Wild Boar
分類: 偶蹄目(ウシ目)イノシシ科
分布: 本州、四国、九州
主な生息環境: 森林、里山
展示エリア: かごしまの動物ゾーン

ニホンイノシシは どんな動物?

イノシシの仲間ってたくさん!



「新編畜産大辞典」より

日本でみられる イノシシ

イノシシには、多くの地方亜種がみられ、日本には二亜種がいます。



	生息域	体重 (成獣のオス)	頭胴長 (成獣のオス)
ニホンイノシシ <i>Sus scrofa leucomystax</i>	九州～東北南部 (岩手県一関でも目撃、 近年分布が北上してきている)	50～150kg	110～160cm
リュウキュウイノシシ <i>Sus scrofa riukiuanus</i>	奄美大島と沖縄の南西諸島	40～50kg	80～110cm

寿命は野生のイノシシでは5年程度ですが、飼育下では10年以上になることもあります。

イノシシの体を みてみよう!

吻鼻骨をもち、円盤状の鼻鏡で、地面を掘り、根やタケノコなどエサを探すことに使う器官です。



歯

歯は44本あります。犬歯がよく発達して、特にオスは牙状になります。



鼻

毛

褐色～暗褐色の剛毛で少ないです。オスは頭から首のつけ根にかけてたがみのような少し長い毛を持ちます。歯ブラシの素材に利用されることも。

尾

短く先に毛が筆状に生えています。くるりと丸まらず真っ直ぐのびています。

肢蹄



指は4本で、一番目の指は退化し、三、四番目の指で体を支えます。二、五番目の指は小さく、かかとにあたる部分にあります。

イノシシ Q&A

「何を食べるの?」

草、木、茎、根、果実、木の実、昆虫、カエルやトカゲ、死肉など。なんでも食べる雑食性。植物の地下茎(根)をガムのように噛んで栄養分を摂取します。

「鼻を使って何してるの!」

ルーティングといって、鼻を使って穴を掘り、食べ物となる根っこなどを掘ったりする探索行動を行います。視力はあまりよくありませんが、聴覚と嗅覚はすぐれています。嗅覚を利用したトリュフ採りが有名ですね!



「何かないかな?」ルーティング中

「夏はいつもドロドロなのはなぜ?」

イノシシは汗腺の発達が悪く、体温調節が苦手。暑い夏は乾いた地面を掘り、湿った部分で横になり泥浴びをします。水場があれば水浴びをすることもあります。「ぬたうち」というこの行動は、寄生虫を落とす効果もあります。



床暖房ならぬ、床冷房!?
(イノシシを先祖とするブタの品種の一つ、デュロック)

「こどものことを「うりぼう」ってよぶのはなぜ?」

生後1～3ヶ月の頃は頭から尾にかけて線状の模様があり、これが青うりのように見えるためです。イノシシは多産(一度に複数の子どもを出産する)のため、乳首も5～6対あります。



やぶの中でカモフラージュとなる「うり模様」

普段は群れでくらしですが出産前は単独になり、やぶの中に作った巣の中で出産します。

私たちとイノシシの関係をちょっと考えてみましょう

●イノシシの分布が拡大してきている！

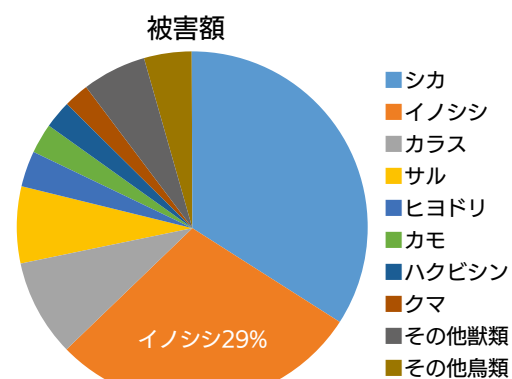
イノシシの分布を制限する要因は3つ考えられます

- ① 積雪 イノシシが分布していない場所は、30cm以上の積雪が70日間続く地域です。積雪はイノシシの行動を妨げ、食べ物の入手を困難にすると考えられています。
- ② 乾燥 非常に弱いです。
- ③ 凍結 歩きにくく、また地面を掘ってエサを探すことができなくなります。

イノシシがすむ里山が高齢化や過疎化(人口の流出)により、田畑が使われないままになったり、近くの森林を適度に伐採するような管理ができなくなると里山が荒れてきます。荒れた里山はイノシシの隠れ場やエサ場になり、繁殖するのに最適な条件が整うことで、分布が拡大していくのです。

●三大害獣の1つがイノシシ！

三大害獣(畑などを荒らし、農作物に被害をもたらす哺乳類)とは、サル、シカそしてイノシシです。平成26年度の野生鳥獣による農作物の被害金額は191億3400万円で、そのうちイノシシによるものは全体の29パーセントの54億7800万円です。水稲やトウモロコシ、イモ類、豆類、果物などが被害に遭っています。



参考:江口祐輔「本当に正しい鳥獣害対策Q&A」,誠文堂新光社,2016

●イノシシと共存するためには…

森林内を掘り起こすことで、土の中で休んでいる種子を活性化させたり、他の動物にエサを提供したりしてくれるので、イノシシは森林の多様性に必要な存在です。

被害を小さくするための対策を3つご紹介します。

- ① 農村側の要因を取り除く
農地を放置しない、畑に食べ物を捨てない、草木を整え隠れ場をなくし侵入を防ぐ
- ② 畑(農地)を守る
侵入防止柵で田畑を囲う、忌避剤を侵入経路にまく
- ③ 捕獲
被害の調査や、被害を起こしているイノシシを調査する



イノシシが来た！というサイン(フィールドサインといいます)は次の通り。参考にしてみてください。

- ① 足跡(2本の蹄の跡であることがほとんど)
- ② 糞
- ③ ぬた場…泥浴びの跡、木に体をこすり付ける
- ④ エサを探した跡(土を掘り起こす)



◀2本の蹄の跡がくっきり

●「ジビエ」という言葉を知っていますか？

「ジビエ」とは、狩猟で得た天然の野生鳥獣の食肉を意味するフランス語で、ヨーロッパでは貴族の伝統料理として古くから発展してきた食文化です。狩猟や有害捕獲されたシカやイノシシを野山に廃棄することなく、食肉として有効活用し、飲食店でのジビエ料理の提供、加工品開発と販売、環境保全に関わる取り組みなどを通じて、鳥獣被害対策や地域活性化に貢献しています。日本では、11月15日～2月15日まで狩猟が解禁となり、ジビエのシーズンとなります。ワインにも合うため、グルメ好きにはたまらない人気の高い料理です。皆さんもぜひ口にしてみてはいかがでしょうか？

平川動物公園のタロウ

●日常のケア

タロウは、2017年4月に推定一歳で当園にやってきました。その頃からよく触れ、名前を呼んで接していたこともあり、「タロウ!」と呼ぶと「ブッ!」と返事しながら寄ってきてくれるため、体調の良し悪しや怪我がないかなどを近くで確認することができます。また、背中をこすると気持ちよくて横になります。本来は山野を駆け回りすり減る蹄ですが、削りきれず伸びてしまっているのを、この時を利用して爪切りをしています。



タロウに負担なくケアができます

●イノシシはイノシシらしく…

タロウはイノシシの群れで暮らすことができなかったためか、本来行う「ぬたうち」がなかなかみられませんでした。そこで、鼻を使う練習として、小さな穴を複数開けた丸太に固形飼料を入れて与えてみました。すると、固形飼料を食べるために鼻先を使って丸太を転がし始めました。展示場の土場に水をまいて耕した人工的な泥場を用意し、土を掘る練習もしました。最初は濡れるのも嫌がっていたタロウも、湿っている土が気持ちいいのに気づき、穴を掘り始めました。大きなくぼみ(床冷房)を作り、休むようになったのです。



鼻で丸太を転がし始めました



タロウが作った寝床

さらに、ドングリ探しができるようにもしました。冬の間、山では食べ物が減るため、野生のイノシシは落ち葉をかきわけながらドングリを探し出して食べます。

夏に水浴びをするためのプールに落ち葉を敷き詰め、ドングリをばらまいています。はじめは鼻を差し込んだだけでしたが、今では全身を落ち葉にうずめて一心不乱にドングリホリホリ!を楽しんでくれています。



カリカリという音も聞こえてきます

●さいごに

イノシシという動物は、私たちの生活と密接に関わってきました。身近な動物だからこそ、軋轢が生じることもあります。上手に共存していくためには、イノシシのことをよく知り、何をすべきか考えることが大切です。まずは、平川動物公園の「タロウ」に会いにいらしてください！

「猪突猛進」という言葉のイメージはあまりよくない時にも使われますが、ルーティングしてエサを掘り当てるイノシシのように、「思い切っているんなことに挑戦する」を2019年の目標にしてみたいかがででしょうか？新しい自分を掘り当てることができるかもしれませんよ！



担当者:河野・川久保

シンリンオオカミが 生まれました

2018年5月11日にシンリンオオカミの赤ちゃんが誕生しました。平川では初めてとなるシンリンオオカミの出産と子どもたちの成長をご紹介します。

シンリンオオカミとはどんなオオカミ？

現在北半球の大陸に広く分布しているオオカミのことをタイリクオオカミ（別名：ハイイロオオカミ）とよんでいます。その中でも北アメリカに生息するオオカミはシンリンオオカミとよばれており、タイリクオオカミの亜種です。

シンリンオオカミとしては 初めての出産！

当園では以前飼育していたシベリアオオカミ（生息地：ロシア）での出産経験はありましたが、今回シンリンオオカミの父親ロジックと母親ミナとの間に初めてシンリンオオカミの子を授けました。



ロジック(オス)



ミナ(メス)

出会いから出産そして成長の記録

01



ミナがやって来てロジックと一緒にしたのは2016年4月。そして2018年の3月上旬にロジックとミナが交尾をする様子が確認されました。写真のお尻がくっついた状態は、確実に交尾をした後に見られるロッキングとよばれるイヌ科動物特有の状態です。

02



シンリンオオカミの妊娠期間は2ヶ月ほど。4月下旬からお腹が膨らんできたので、出産の準備に入りました。出産のために用意された木製の巣箱に最初ミナは戸惑っていましたが、やがて落ち着いてその中で休むようになりました。

03



2018年5月11日の朝、ミナがお腹に4頭の赤ちゃんを抱えているのを発見しました。4頭ともしっかりと母親のお乳を吸っている様子が確認できました。目はまだ開いておらず動きもモゾモゾと這い回る程度です。

04



生後2週間。成長するスピードがとても早く、みんな丸々と太ってきました。全頭が健康に育っていることが目に見えて分かり安心しました。この頃には赤ちゃんの目も開きはじめ、日々動きが多くなってきました。

05



生後1ヶ月。まだヨチヨチ歩きですが少しずつ歩行も上達し、徐々に母親の体から離れて過ごす時間が長くなりました。顔つきもしっかりしてきて見た目は子犬のようですが、やはり足や爪の大きさはオオカミらしくて立派です。

06



生後1ヶ月半。巣箱からよく出歩くようになり、子ども同士でじゃれあう姿も見られるようになりました。西郷隆盛が好んだ言葉「敬天愛人」にならい、オス2頭を「ケイ」「ジン」、メス2頭を「テン」「アイ」と名付けました。

生後2ヶ月。父母とともに展示場に出て、家族そろって行動する姿が見られるようになりました。父親の口元を舐めて食事をねだったり、母親と一緒に昼寝をしたりと親子の関係性も観察することができ、シンリンオオカミの展示場がとても賑やかになりました。

08



10



生後3ヶ月。子犬のように垂れていた耳はすっかり立ちあがり、だいぶオオカミらしくなりました。残念ながら「テン」と「アイ」は2018年7月末に、「ケイ」は11月に亡くなってしまいましたが、「ジン」は母親の「ミナ」や父親の「ロジック」と区別がつかない程に成長しました。これからも来園者の皆様に愛され、いつまでも健康に過ごし天寿を全うして欲しいと願っています。

07



09



2012年に一緒に来園したサン(手前)とロジック

2019年2月にロジックが亡くなりました。2012年の来園時から、色々な表情を見せてくれました。ロジック、ありがとう！

「大人のための羊毛教室」を開催しました！

第1回 ヒツジについてのお話と飼育体験



▲まずはヒツジについて勉強



▲飼育体験。体力仕事です！



▲春に生まれたトウマがお出迎え



▲おいしそうに食べてくれるでしょうか？

第2回 毛刈り体験、羊毛洗い、乾燥作業



▲今回は毛刈り体験。
保定の方法や道具の
使い方をレクチャー

難しい！

ボロボロになってしまいました…▲



▲きれいに刈ると服を脱がせた
ように一枚の繋がった状態に
なります



▲やさしくゆするように洗います

大人のための羊毛教室は、人とヒツジとの関わりについて学ぶ大人向けの講座です。全4回でヒツジの飼育方法から毛刈り、そして刈りとった毛を使った工作まで、座学だけでなく、体験を多く取り入れています。ヒツジを育て、その毛から何かを作るには大変な手間と技術が詰め込まれており、それを体験しながら知っていただこうと、2017年から実施しています。今回は2018年に実施した様子をご紹介します。

第3回 ほぐし、染色、糸づくり



▲草木染めの染材はユーカリ



▲きれいに仕上がりました



▲ぐつぐつ煮で…



▲スピンドルという道具を使い、糸づくり。「難しい！」という
悲鳴が響き渡りました

第4回 マフラー付きマスコットづくり



いよいよ最終回。フェルティングニードルという道具を使ってマスコットづくり。さらに第3回に作った毛糸でマフラーを編み、首に巻いて完成させました。



トカラヤギも
お出迎え♪

ヤギやヒツジたちが過ごすふれあいコーナーの担当者は、家畜とヒトの関わりについて考える機会がとても多いです。なかなか奥が深く、そして、すごく面白くカワイイ家畜たち。そんな魅力にはまって、本講座ではリピーターの方も。毎年度、より良いものになるように工夫していますので、ご興味ある方は是非いらしてください。お待ちしております！